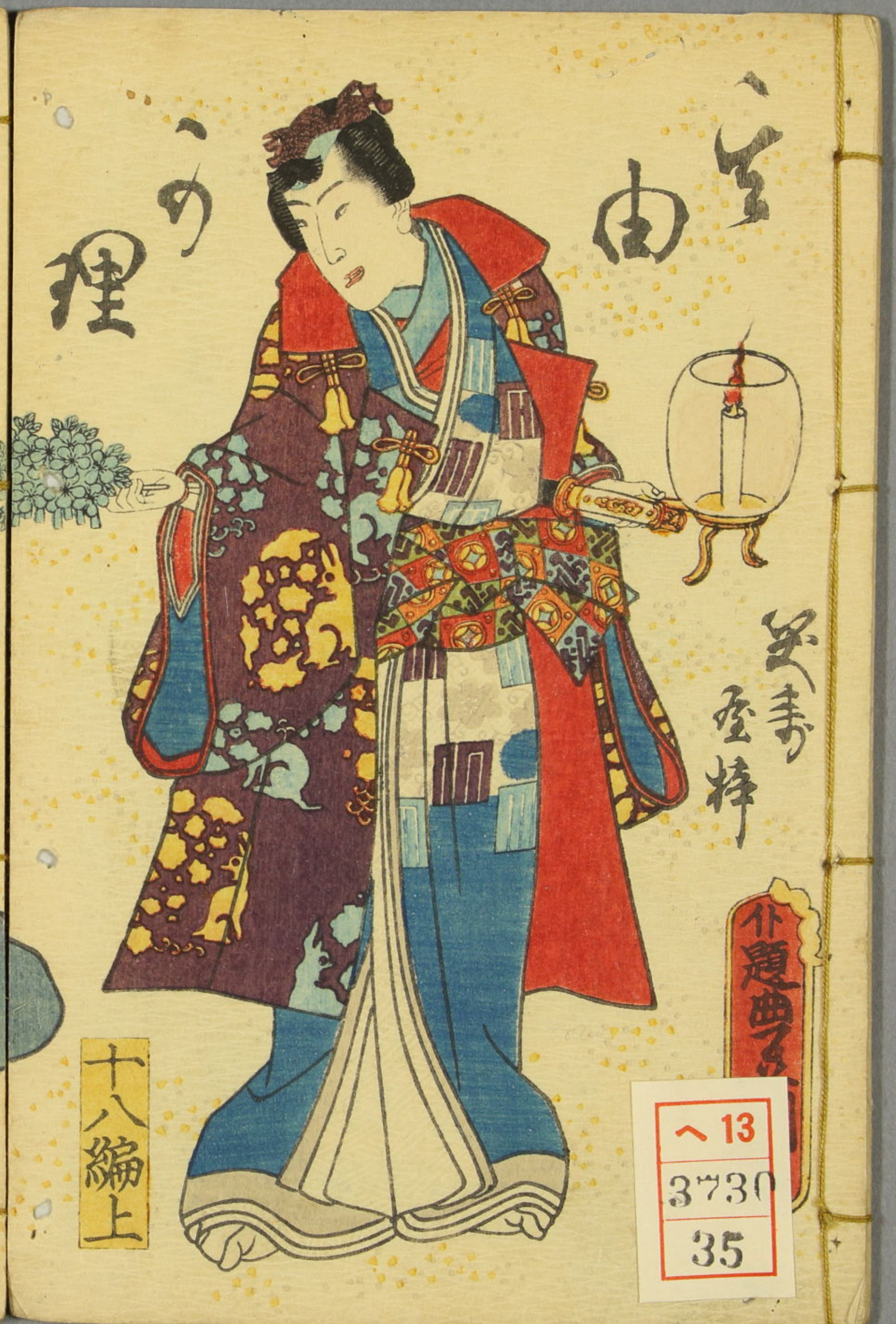


柳亭作  
國貞画  
邵の傷

十八編下

~ 13  
3730  
36



由  
の  
理

笑壽  
至粹

小題曲

十八編上

~ 13  
3730  
35





由至  
の理

笑  
至  
梓

什  
題  
曲

十八編上

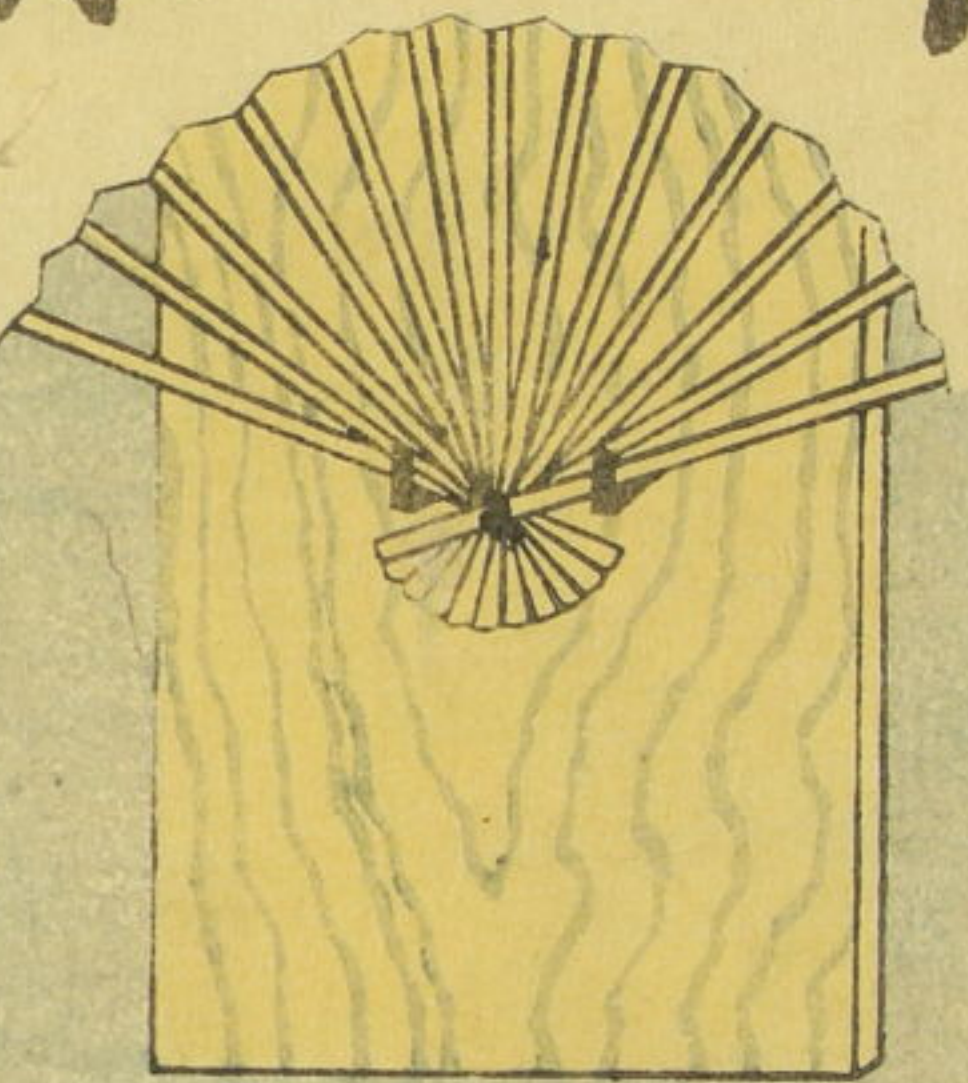
~ 13  
3730  
35



13  
3730  
35

二代目  
柳亭  
著

真由燦



新川  
國次郎

総目録

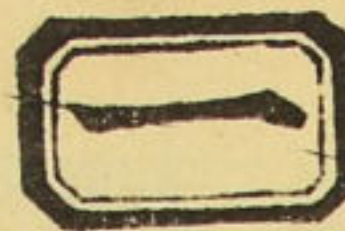


能言  
鳥飛  
離世  
畫に

執行の世はさかどく上下世恨



動せや可愛と唯一句の貴聲と  
 聞ぬの遺憾あり假今日と招く  
 大相國車に衝立時平公でも演戲の  
 演戲を頭も低ぶつは焼刃の須臾  
 砍す懐刀の即席の用小達ぬと  
 いゆにせん是悉實此物ある後  
 精神も亦至らざる畢竟鏡影の如し  
 ささば源氏の作者と称揚てある此作主  
 の男あや大臣の家ある公小生とて大政と  
 少女卷の抄註小あるされつる是と  
 繪草帑よ作る吾輩もさささりの徳の  
 人並の世に経るゝ才覚いある此小頭のあ  
 がぬ布世屋小屈りのつるも變らぬ東店住  
 居瑠璃色浅で紫と化し小鉢の牽午子の  
 露は筆と拈はるゝ是でも傍紫の作者の  
 と夷則初の四日愚癡と汗とす記を



六條准后御次郎君

香折之丞實ハ赤松柏之助

の胤也

うき婦一もつをれ付  
あつゝ長作のこい  
あつゝのこい  
あつゝのこい



曲立國巻

維世りこの

たねせやまきつと  
人ゆきと

いのよ岩招は

ゆり川と

こころあは

三津世の前

薙髪一七

寺内南の御殿

御法号

三乗禅尼とやとまつる





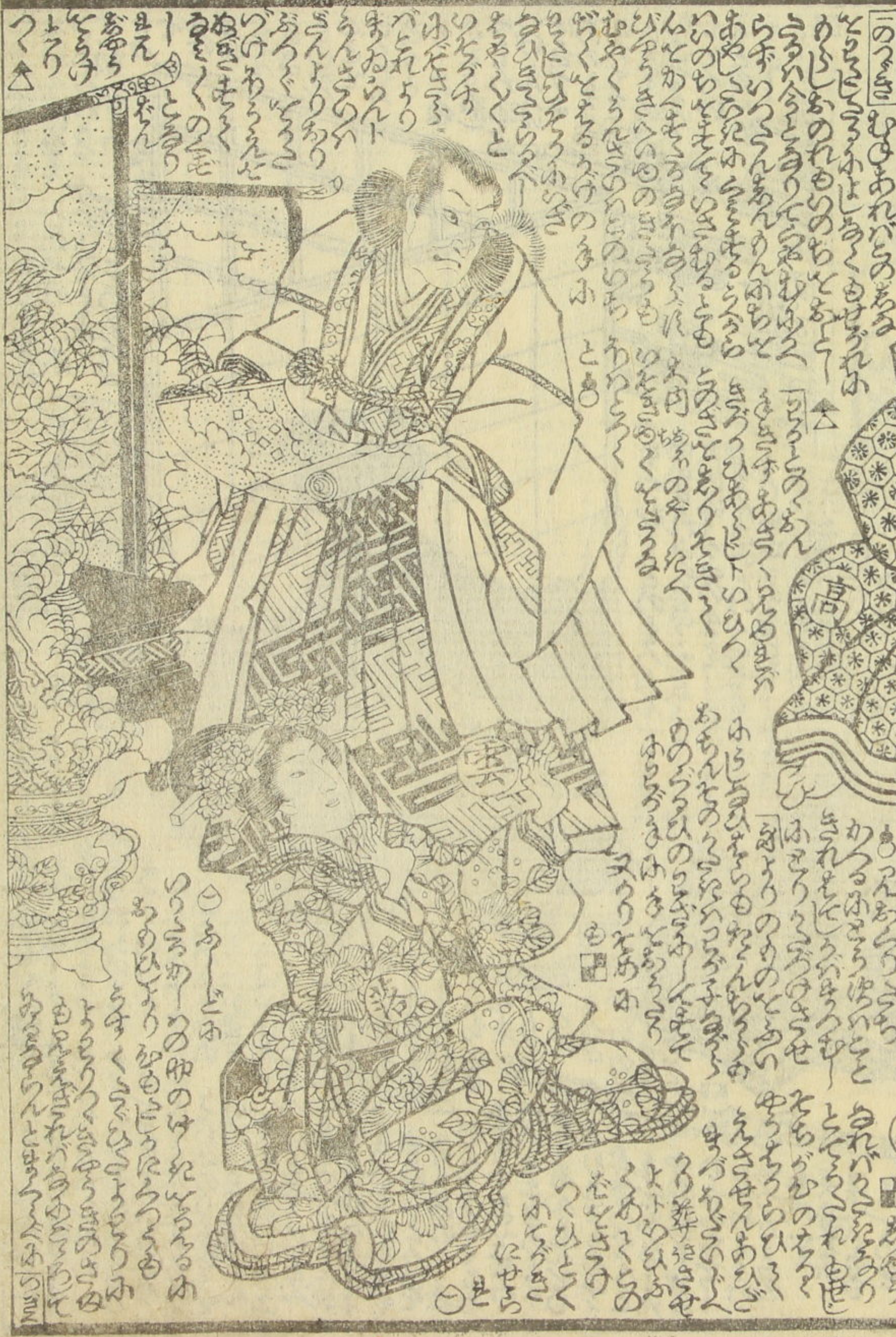
雲井丞氏仲一條の  
 邸小落葉を訪ふ  
 かへはよみおち  
 林をさすりや  
 人あはききるの梢



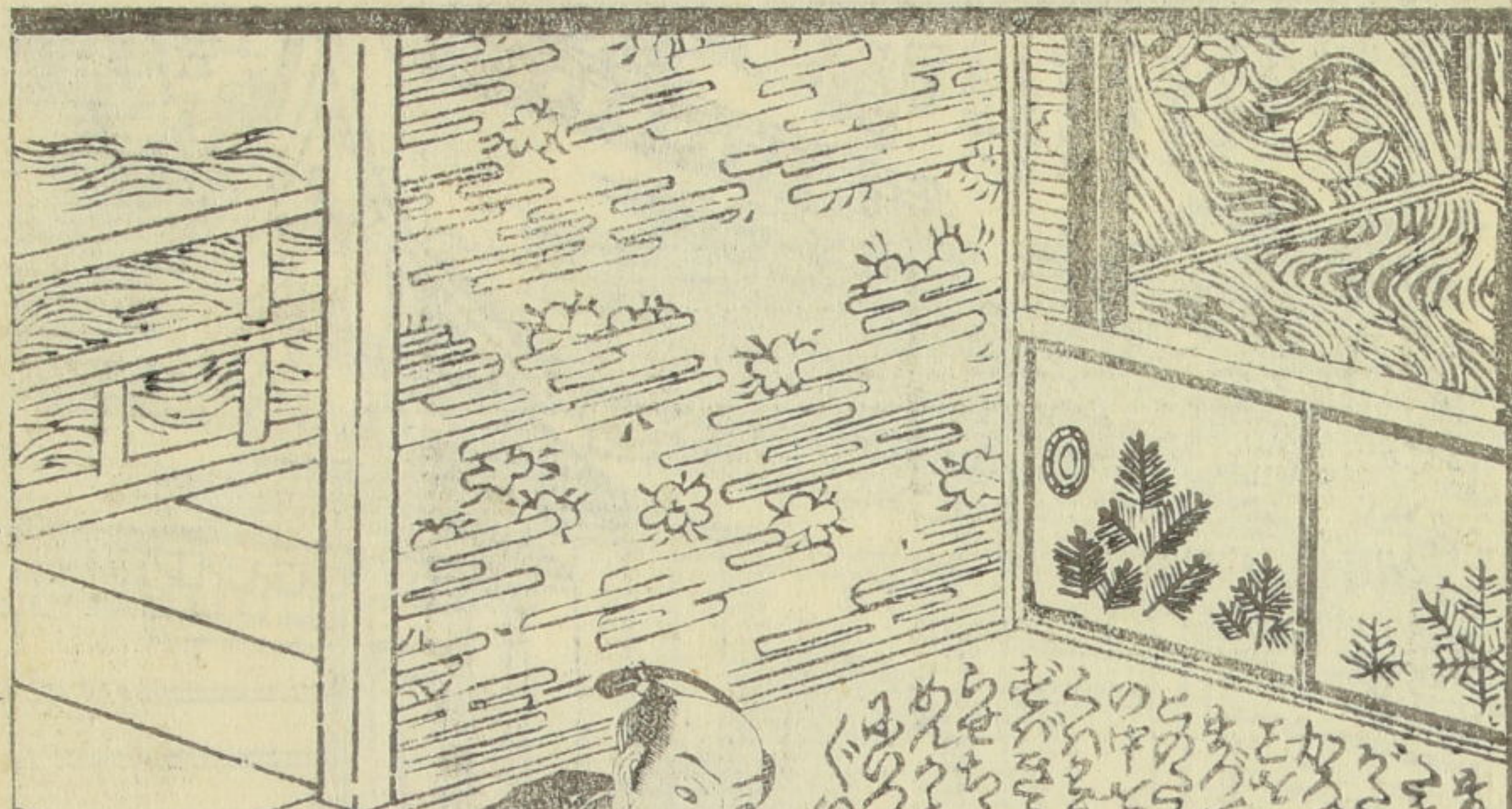
曲多國象



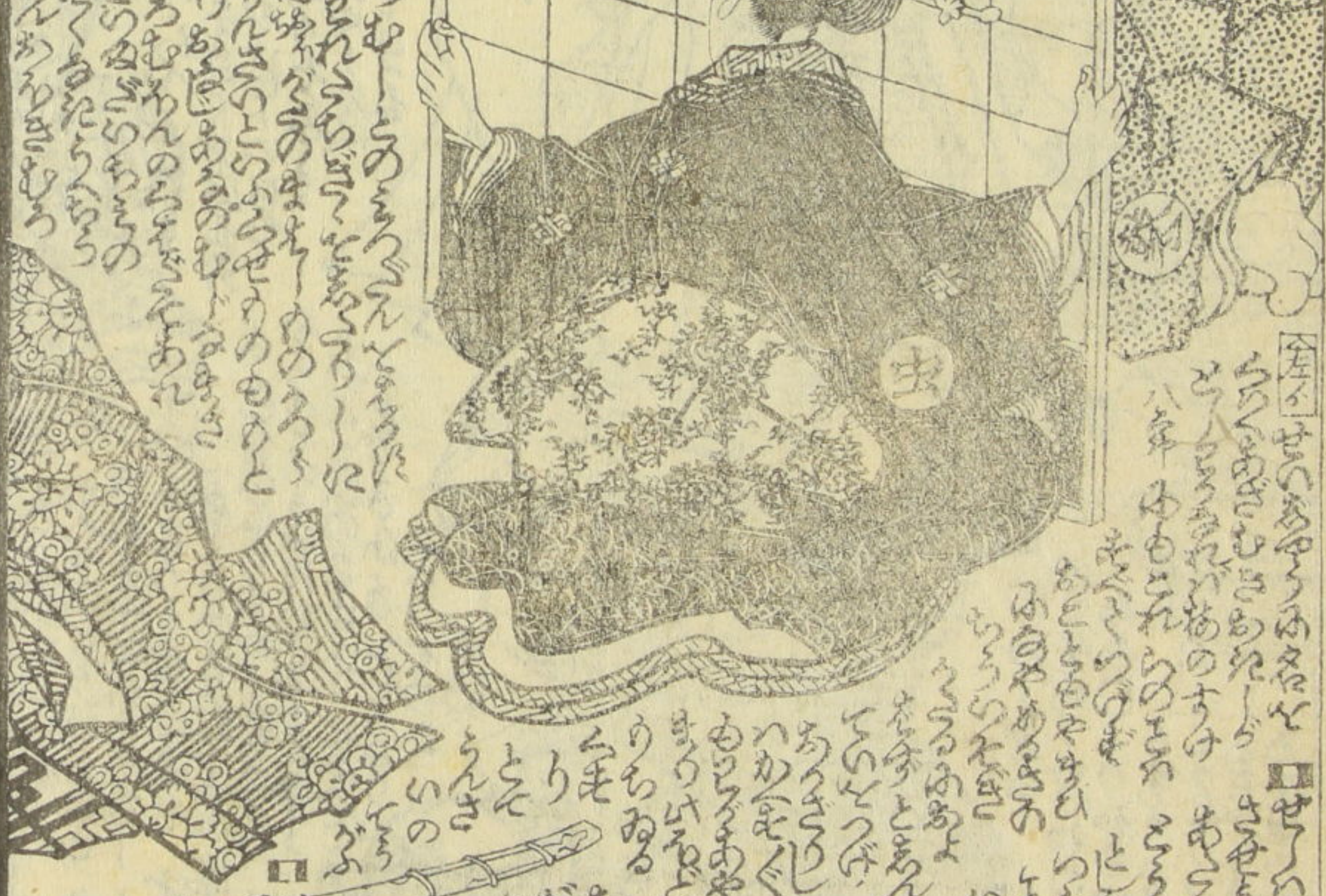
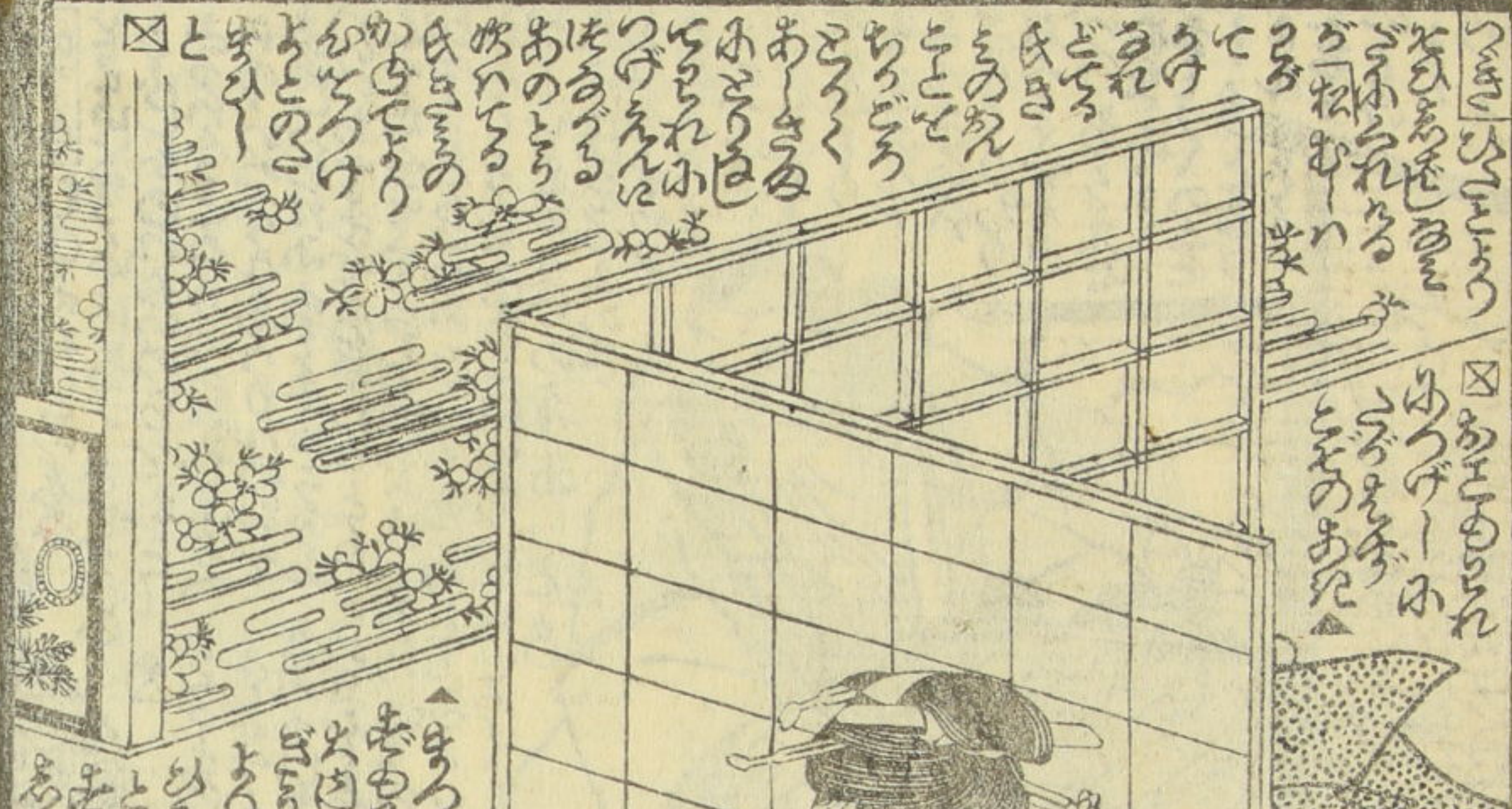








Handwritten text in the bottom left corner of the left page, including a small box with the character '高' (Taka).



Handwritten text in the bottom right corner of the right page, including a small box with the character '高' (Taka).

Handwritten text on the left edge of the left page.

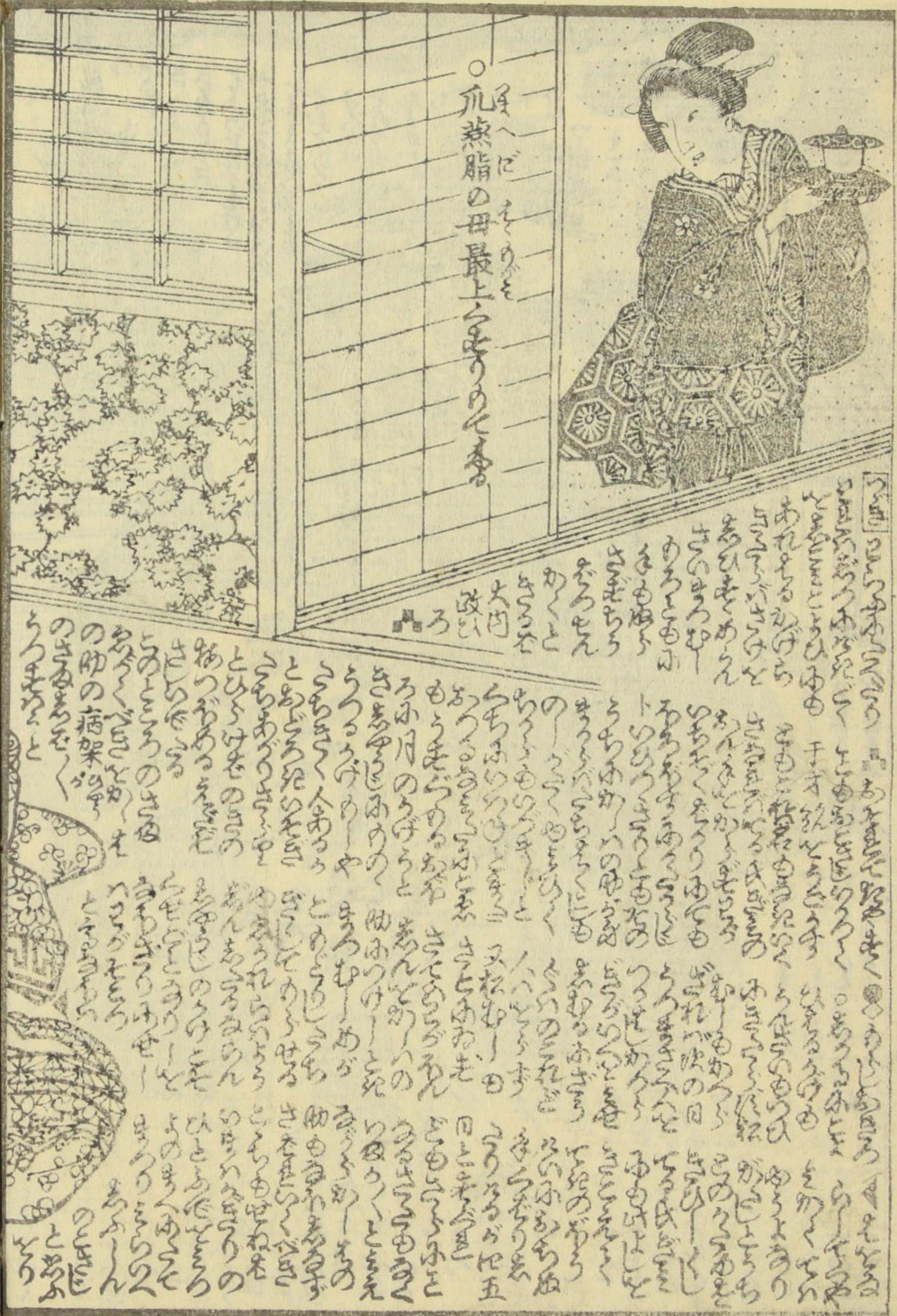
Handwritten text on the right edge of the right page.





第百一

七



第百一

○ 爪燕脂の母最上とすりのりとも

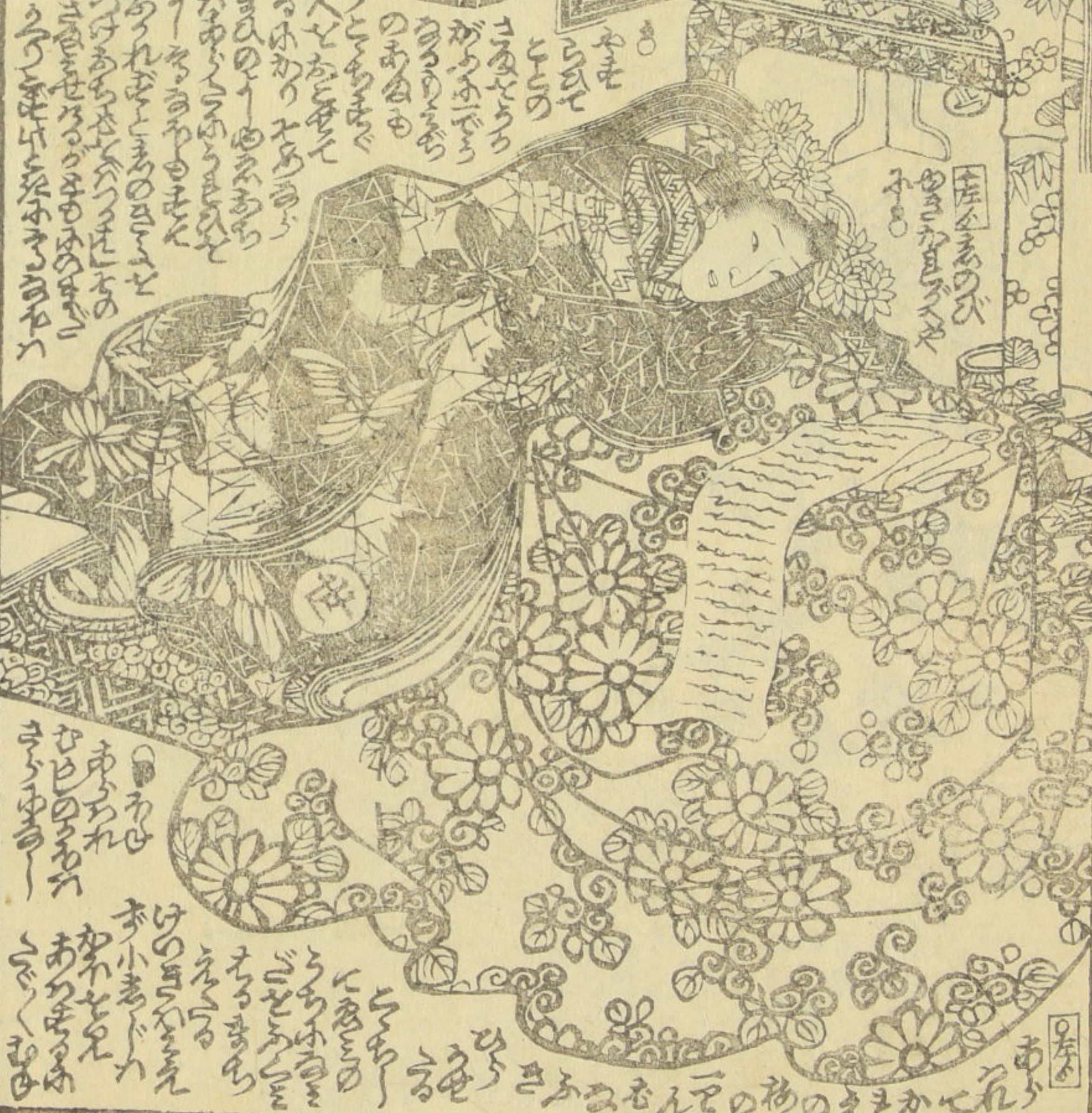
Vertical columns of Japanese text, likely a dialogue or a narrative, interspersed with the illustrations. The text is written in a traditional style, possibly a mix of kuzushiji and a more legible form.

Handwritten text in vertical columns at the top of the left page, likely serving as a title or introductory text for the illustration below.



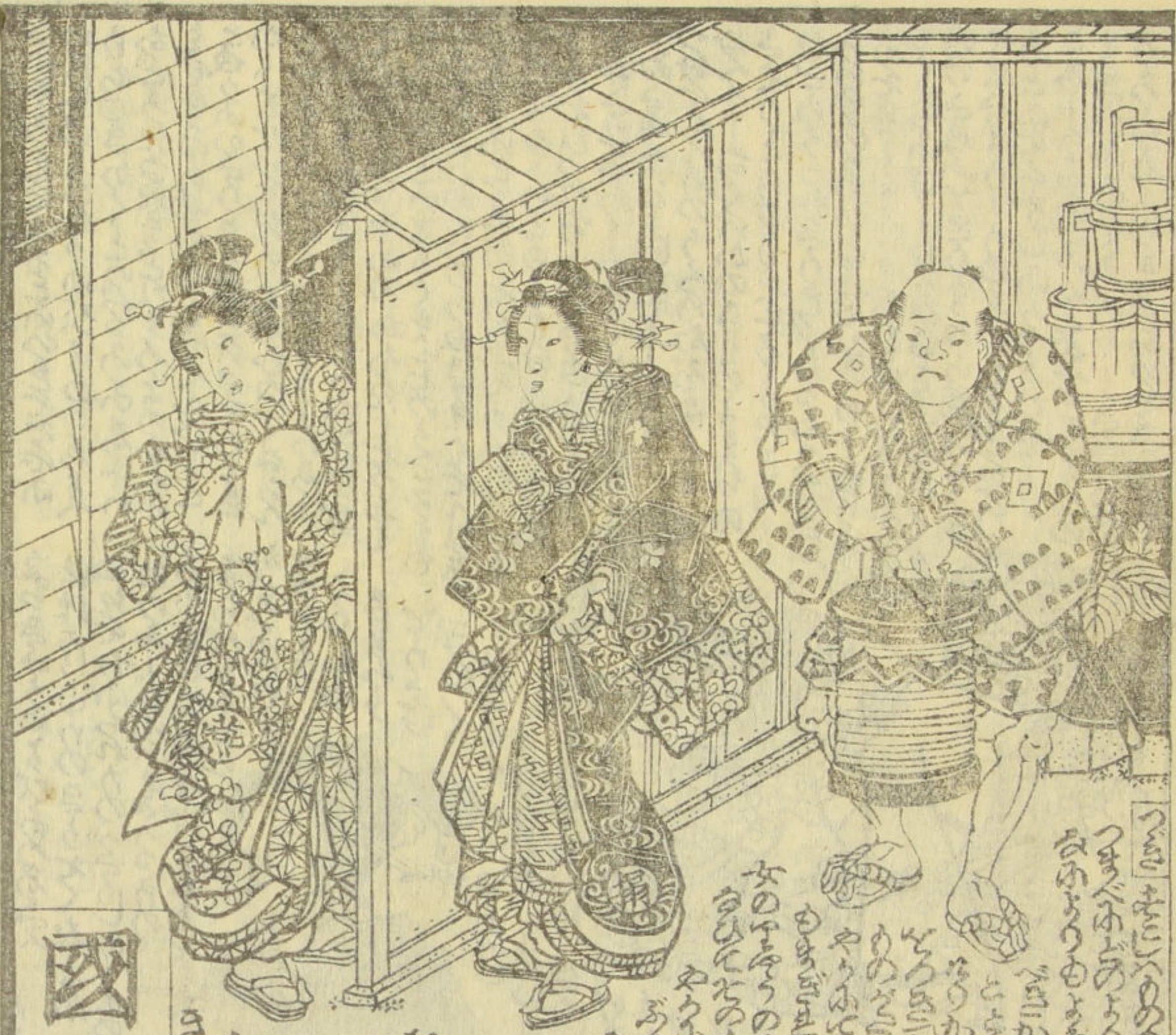
Small handwritten text at the bottom of the left page, possibly a signature or a note related to the illustration.

Handwritten text in vertical columns at the top of the right page, continuing the text from the left page.



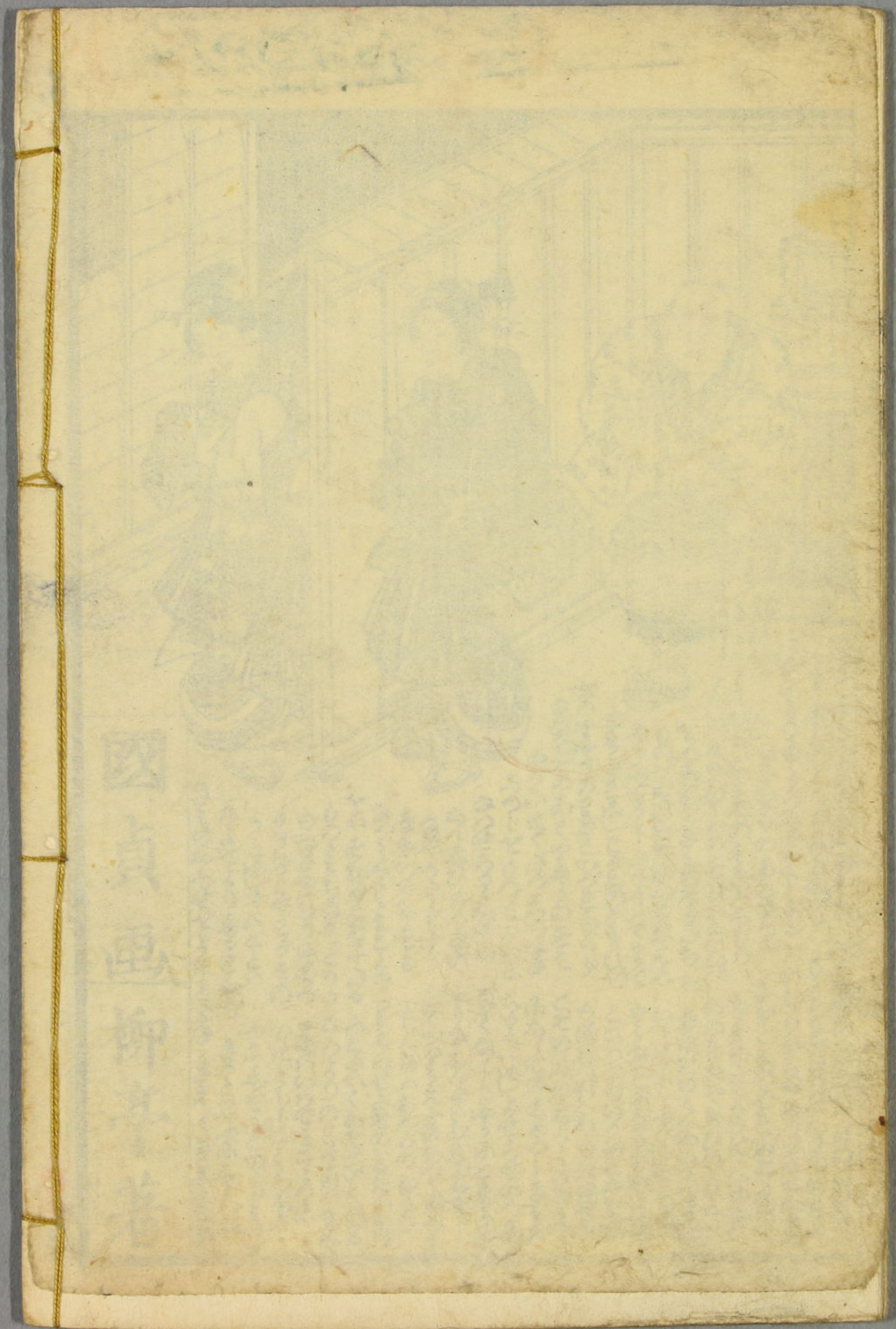
Small handwritten text at the bottom of the right page, possibly a signature or a note related to the illustration.

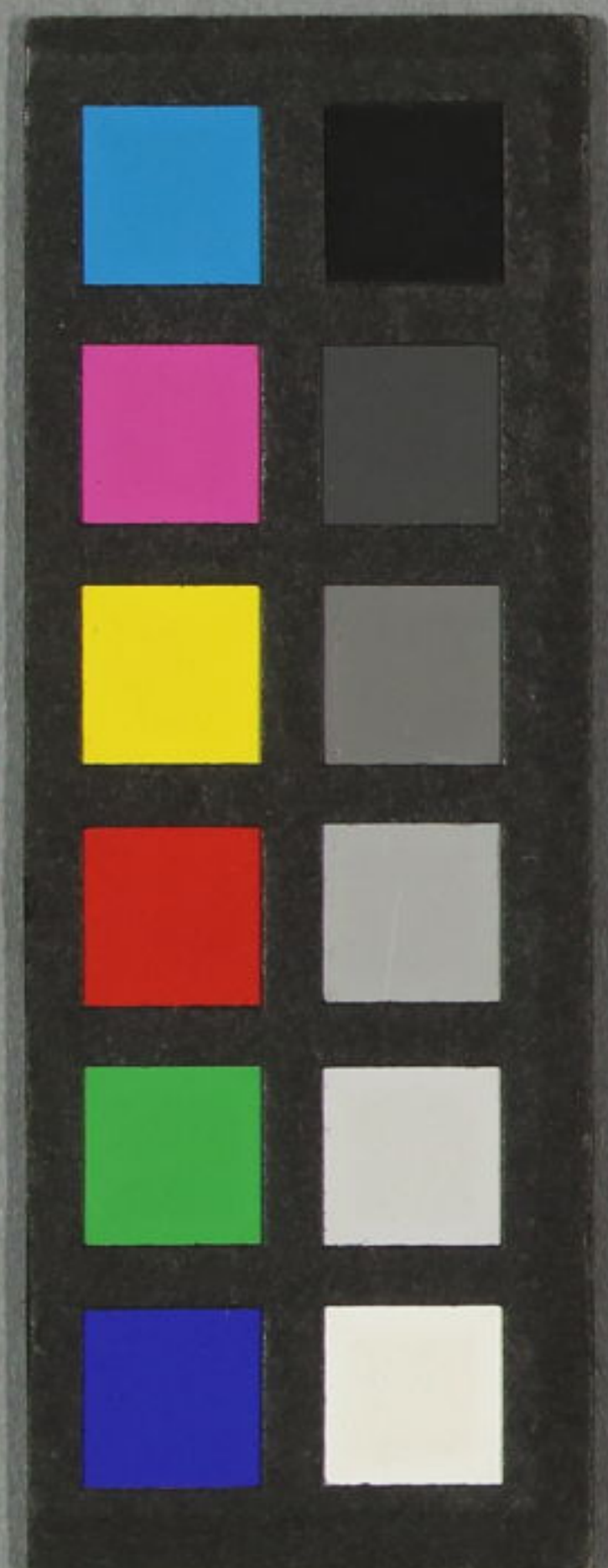
貞画



貞画  
柳亭著  
The text below the illustration is written in a vertical column, likely providing a description or commentary on the scene depicted in the woodblock print. The characters are small and densely packed.

貞画 柳亭著



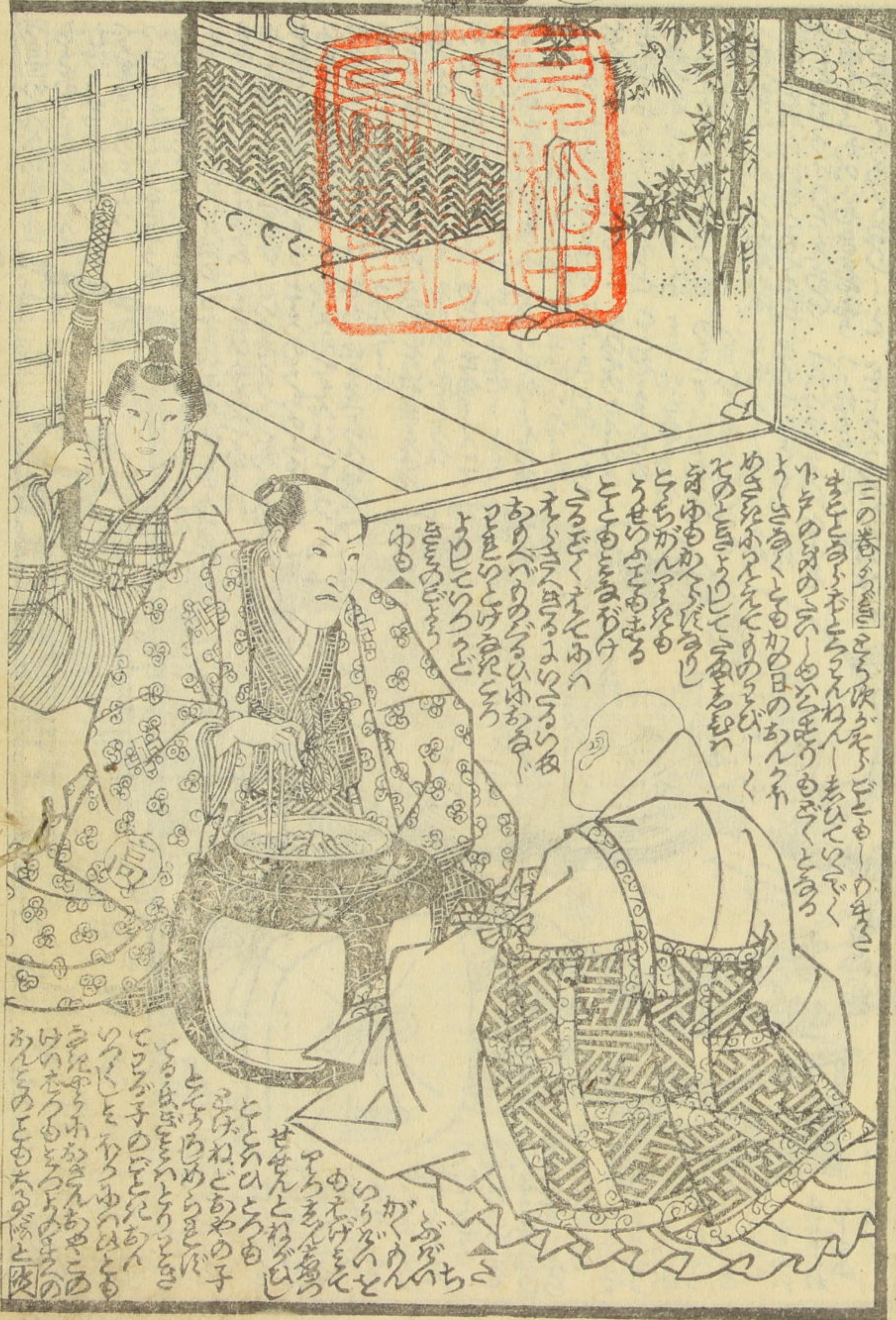
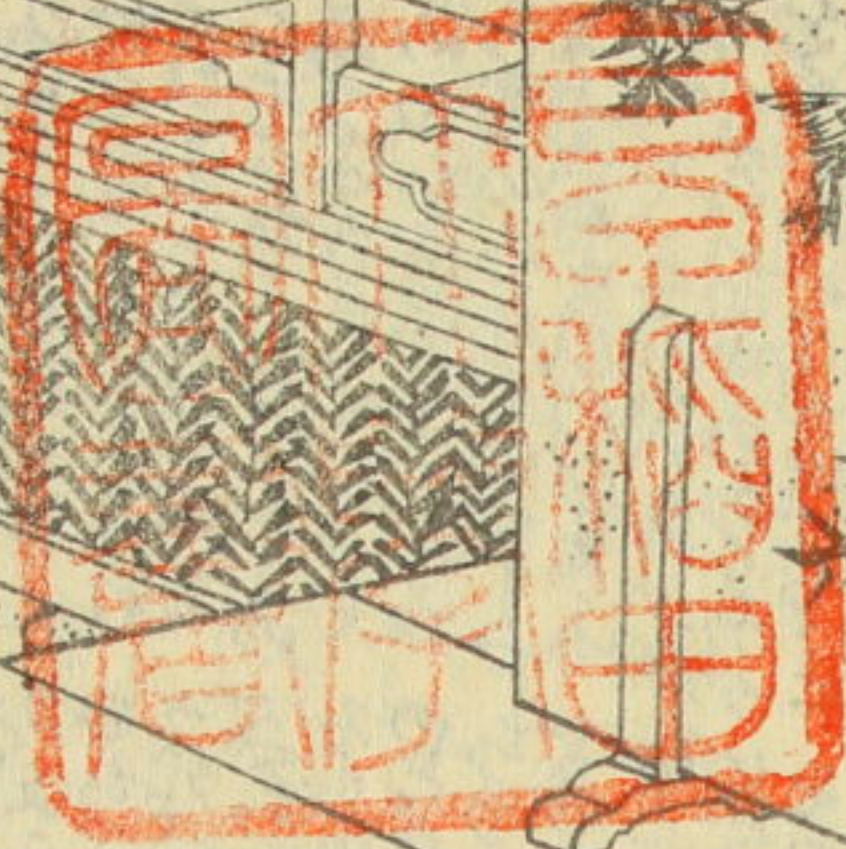


都  
 柳亭  
 作  
 國  
 貞  
 画  
 の  
 傷

十八編下

~ 13  
 3730  
 36





門へ13  
3780  
巻 36

山南能  
於母之計  
十八篇  
下帳

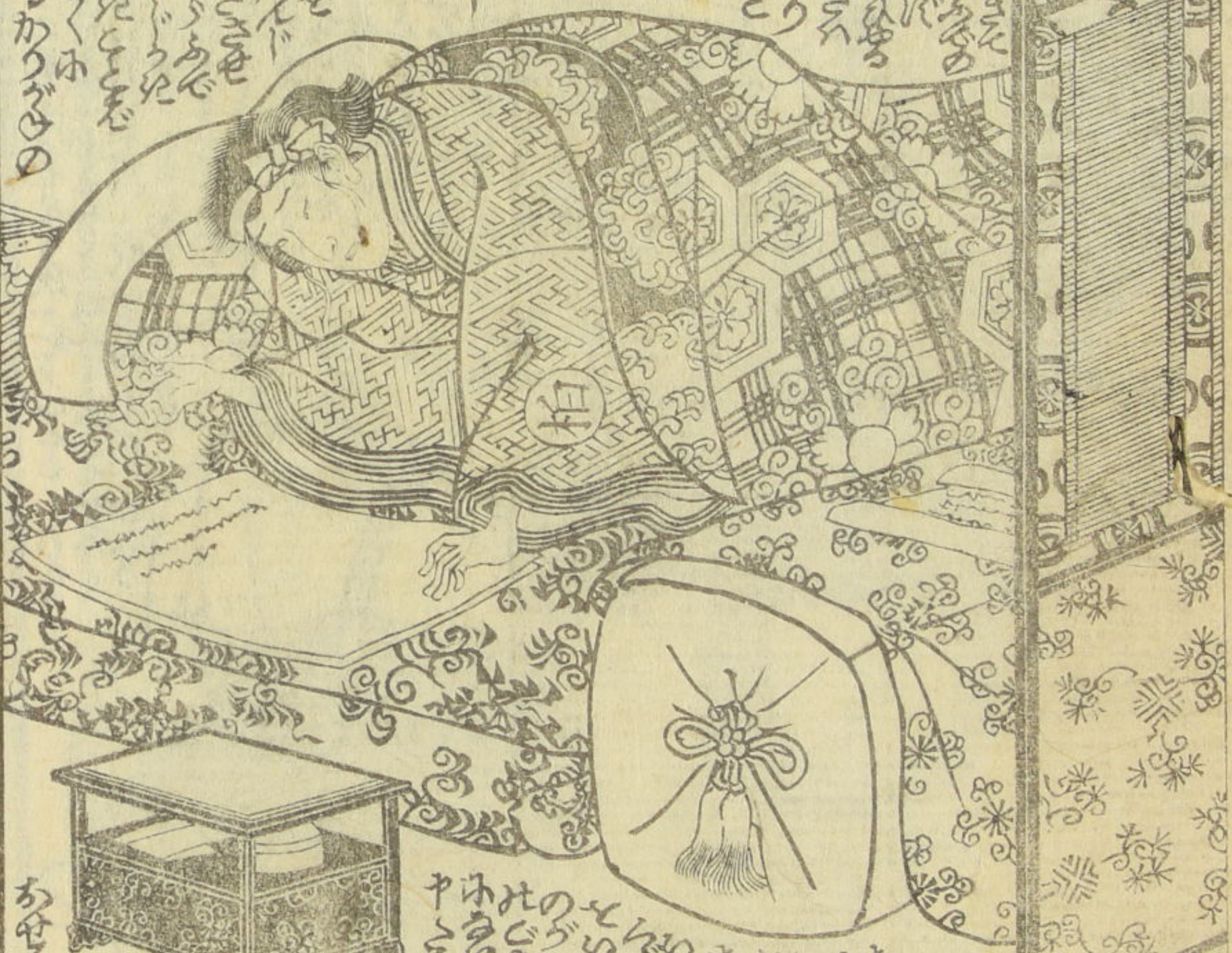


二世柳多化  
梅嶺樓畫





Handwritten text in a cursive style, likely a commentary or a list of items, located at the top of the right page.



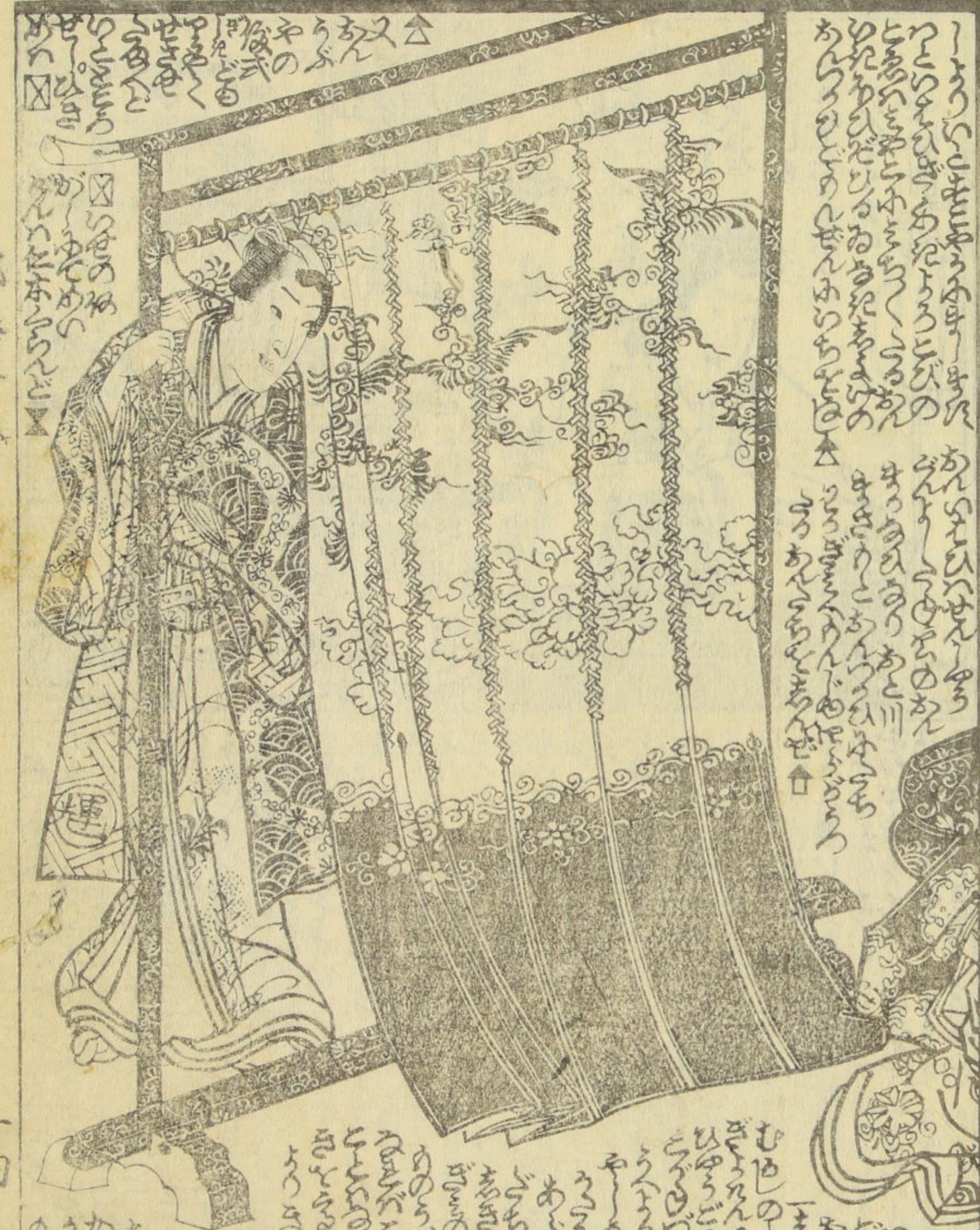
Handwritten text at the bottom of the right page, possibly describing the scene or the items depicted in the illustration.

Handwritten text in a cursive style, likely a commentary or a list of items, located at the top of the left page.



Handwritten text at the bottom of the left page, possibly describing the scene or the items depicted in the illustration.





一のいふてはつていふは  
 二のいふてはつていふは  
 三のいふてはつていふは  
 四のいふてはつていふは  
 五のいふてはつていふは  
 六のいふてはつていふは  
 七のいふてはつていふは  
 八のいふてはつていふは  
 九のいふてはつていふは  
 十のいふてはつていふは

一のいふてはつていふは  
 二のいふてはつていふは  
 三のいふてはつていふは  
 四のいふてはつていふは  
 五のいふてはつていふは  
 六のいふてはつていふは  
 七のいふてはつていふは  
 八のいふてはつていふは  
 九のいふてはつていふは  
 十のいふてはつていふは

又うふん  
 のうふん  
 のうふん  
 のうふん

のうふん  
 のうふん  
 のうふん



一のいふてはつていふは  
 二のいふてはつていふは  
 三のいふてはつていふは  
 四のいふてはつていふは  
 五のいふてはつていふは  
 六のいふてはつていふは  
 七のいふてはつていふは  
 八のいふてはつていふは  
 九のいふてはつていふは  
 十のいふてはつていふは

一のいふてはつていふは  
 二のいふてはつていふは  
 三のいふてはつていふは  
 四のいふてはつていふは  
 五のいふてはつていふは  
 六のいふてはつていふは  
 七のいふてはつていふは  
 八のいふてはつていふは  
 九のいふてはつていふは  
 十のいふてはつていふは

音作

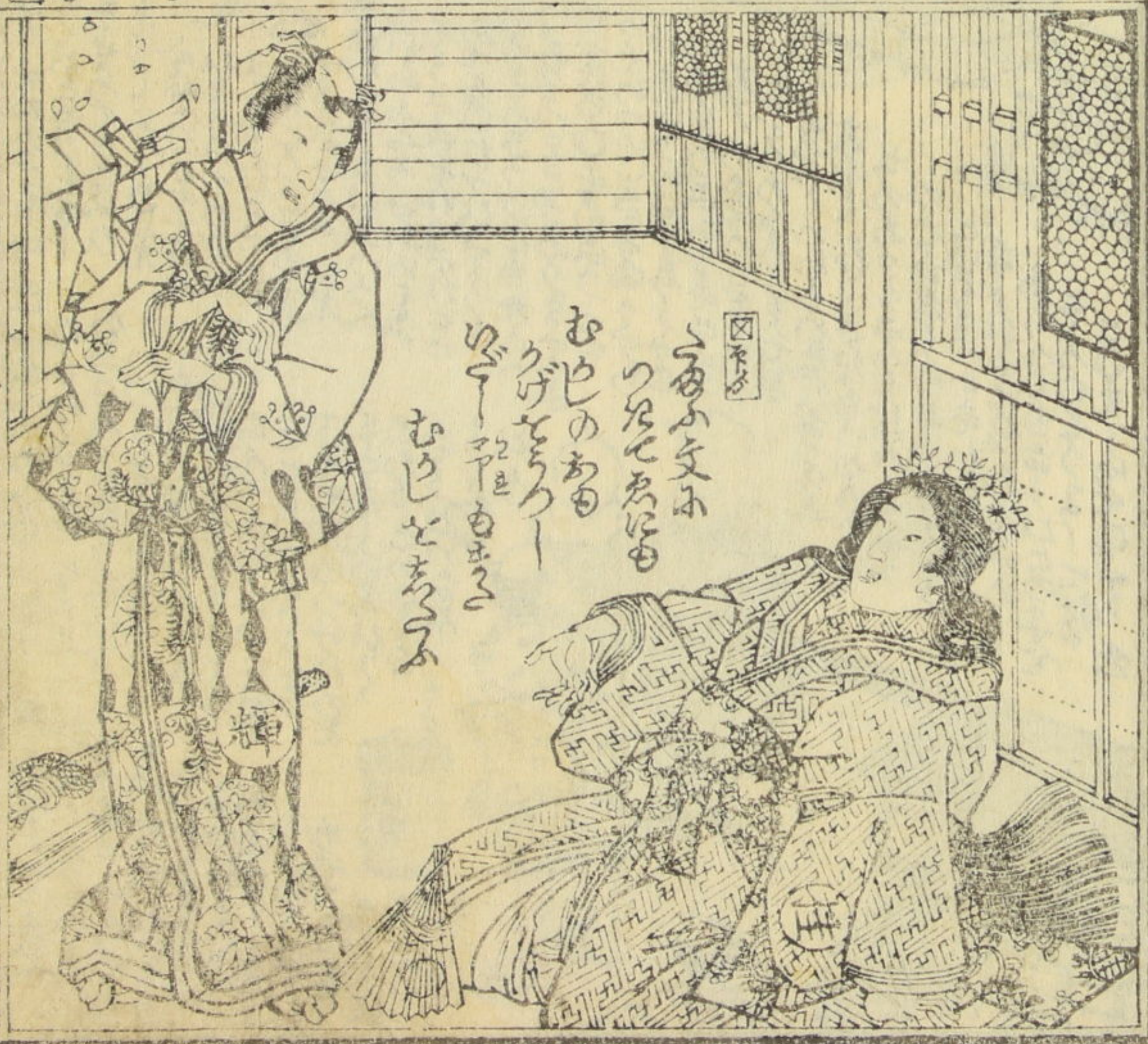


輝君の御座り  
 おしりの  
 あはれとあはれ  
 輝君の御座り

輝君の御座り  
 おしりの  
 あはれとあはれ  
 輝君の御座り

品物

輝君の御座り  
 おしりの  
 あはれとあはれ  
 輝君の御座り

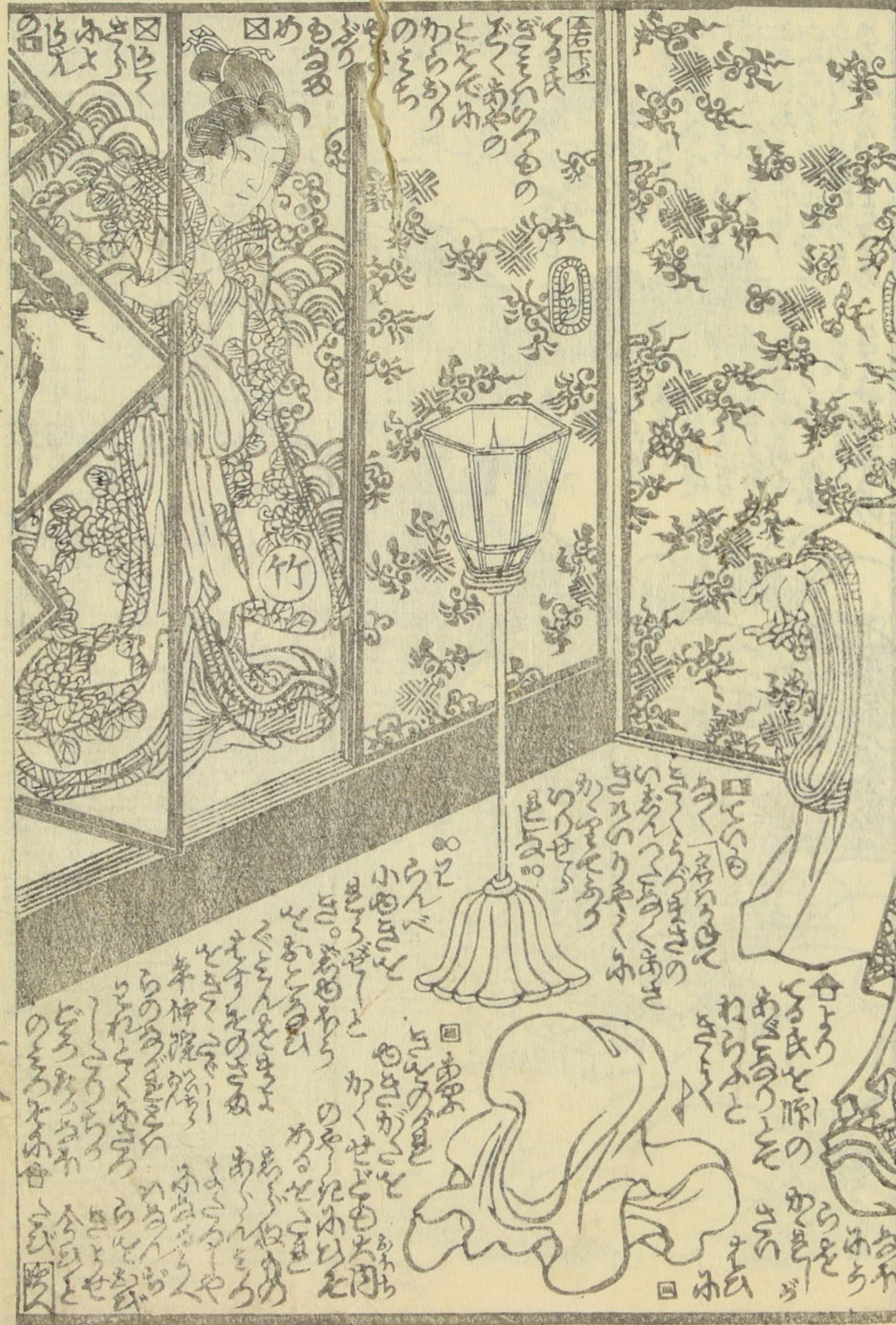


輝君の御座り  
 おしりの  
 あはれとあはれ  
 輝君の御座り

品物







名はふとく  
えとく

名はふとく  
えとく

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

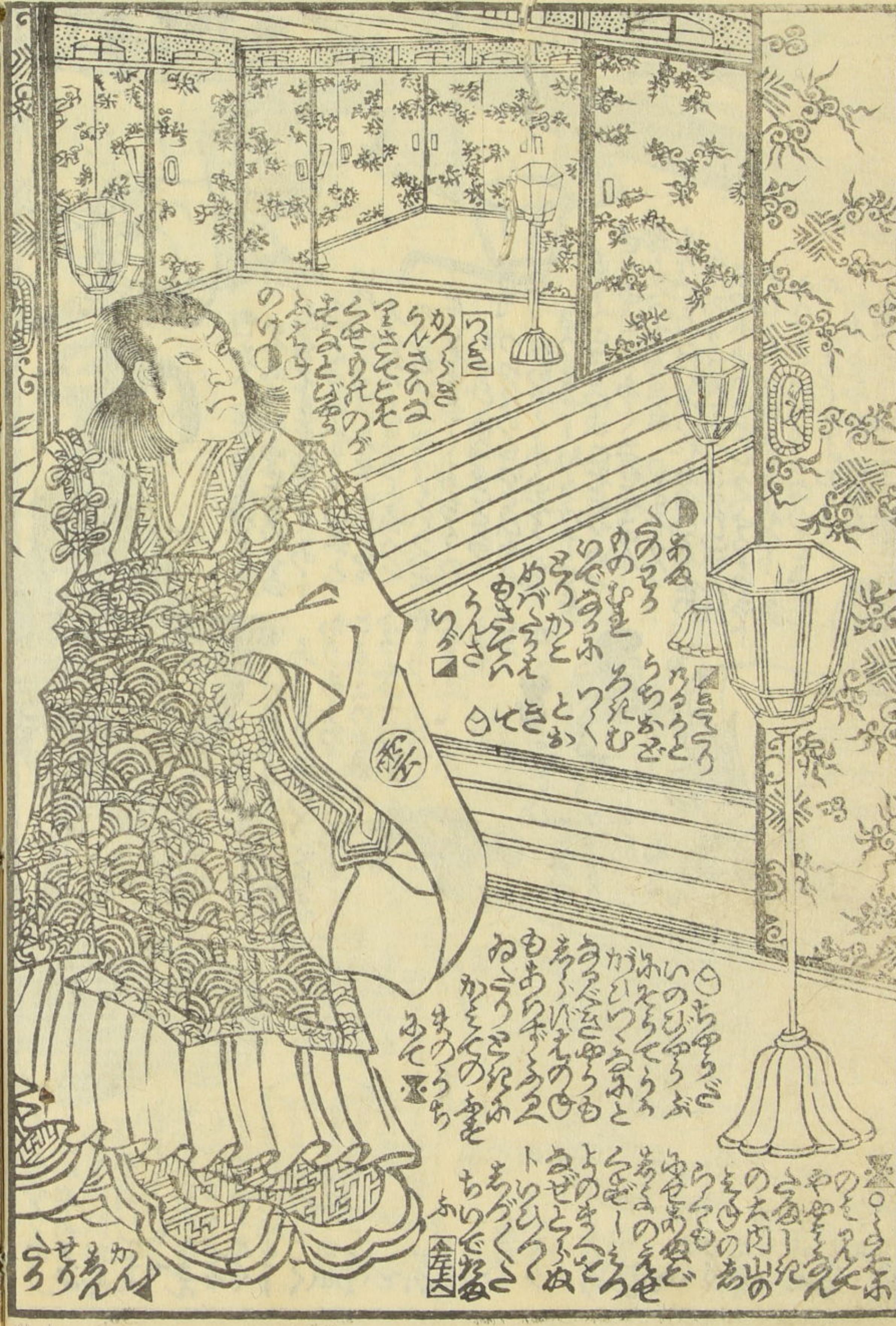
のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり



名はふとく  
えとく

名はふとく  
えとく

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり

のからあり  
ととあり  
ととあり







# 種彦著



### 貞貞國

△あやしの  
いふく  
それのま

○はつろ  
せん

△あやしの  
いふく  
それのま

備書  
交来



